



RICOH ART GALLERY・移転クロージング記念展覧会

名和晃平 | Focus

会場：RICOH ART GALLERY

会期：2022年12月13日（火）～ 2022年12月24日（土）

時間：12：00～19：00 ※最終日18：00終了

休廊日：日・月・祝

※ 新型コロナウイルス感染防止に伴う政府・東京都の方針により、営業時間・会期は前後する可能性があります。

© Kohei Nawa

2022年12月、期間限定で開設していたリコーアートギャラリーは閉廊いたします。

リコーアートギャラリーでの活動を締めくくる記念すべき展覧会として、名和晃平の個展「Focus」を開催する運びとなりました。本展では、立体プリントによる12点の新作を発表いたします。

3年前にスタートしたりコーの立体プリント「StareReap」プロジェクトでは、紫外線の照射によって硬化するUVプリントの精緻な造形力と物質性を活かし、さまざまなアーティストとともに次世代の芸術文化を模索してきました。今回は名和とリコーの間で、ストレートな表現はもちろん、本来のプリンターの機能としては想定されていなかったイレギュラーな使用方法までも含めた数多くのテストプリントを制作し、その可能性を追求してまいりました。

こうして完成した新作は、平面作品でありながら三次元性を感じさせる、彫刻的な作品に仕上がりました。画面上で立体層が繊細かつリズムカルに造形されることにより、強い視覚効果や物質性があらわれています。

StareReapの現在地を感じることでできる本展を、是非ともご覧いただきますようお願い申し上げます。

【リコーアートギャラリーより】

多くのお客様に支えられ、株式会社リコー創業者ゆかりの地でさまざまなアーティストとのコラボレーションが実現しましたことを心より御礼申し上げます。

「リコーアートギャラリーの最後を飾るにあたって、どうしても名和晃平の個展を開催したい」——StareReapのプロジェクトメンバーの強い思いから、今回の展覧会は企画されました。

StareReapのプロジェクトにあたり、本プリンターのテクノロジーを活用できるアーティスト像を考える中で真っ先に名前が挙がったのが、名和晃平でした。さまざまな素材やテクノロジーを用いて作品を制作してきた名和であれば、StareReapの可能性を最大限に引き出してくれるのではないかと考えたのです。

大型展覧会をいくつも抱えた過密なスケジュールにもかかわらず、名和がリコーとのコラボレーションに前向きな意志を示してくれたことにより、プロジェクトは始動しました。

プリントの1層が23ミクロン（髪の毛1本程度）という厚みをどのように活用すべきか。名和とともに検討を繰り返しながら、制作を進めてまいりました。

こうした試行錯誤の結果、18カ月に及ぶリコーアートギャラリーの活動の最後を飾るにふさわしい展覧会となりましたことを大変嬉しく思います。2023年度のStareReapプロジェクトは一層国際的な展開となる見込みです。その点でも、グローバルな活躍を続ける名和晃平とのコラボレーションは、私たちにとって大きな意味を持つこととなるでしょう。

最後となりましたが、リコーアートギャラリーをご愛顧いただいているお客様、挑戦的な試みに快く賛同して協働していただいたアーティストの方々、本プロジェクトに関わっていただきました関係各位に厚く御礼を申し上げます。

【作品について】

これまで、印刷技術はさまざまな物質を情報へと変換してきました。いまや、3Dプリンタで情報を物質に再変換することさえ可能です。データとオブジェクトは絶えず流転し、等価に存在しています。一方で、版画やドローイングといった表現は、人間の五感では捉えがたい微細な印象や概念をいかに表象するかを追求してきました。テクノロジーとアートはそれぞれの方法で、情報と物質、概念と質感の間を往来しています。この二つが合流する場所には、どのような表現が立ち現れるのでしょうか。

今回の展示は、リコーの印刷技術を通じて、名和の作品の背後に存在する関係性を再編集し、UVプリントへと投影する実験的な試みとなりました。星や大地をモチーフとしつつ、それらの間を結びつける力に焦点が当てられています。

名和は自身の創作のルーツの一つとして、幼少期の天体観測の記憶と、そこから派生した天文や物理への興味を挙げています。実際にこれまでも、重力をはじめとした「世界をかたちづくる不可視の力」をたびたび作品のテーマとしてきました。今回はUVプリントという、平面と立体、版画と立体造形の中間的な質感を持つメディアを用いることで、情報と物質の境界的な存在としてこれを表現しています。作品を構成する黒一色のインクの塊には、星々の光やその間に働く万有引力、それを観測する人間のパースペクティブ、そして彼らが立つ大地を形成した地球の運動といった、力の無数の側面が取り出されています。



名和 晃平 | Kohei Nawa

彫刻家。Sandwich Inc. 代表。京都芸術大学教授。1975年生まれ。京都を拠点に活動。

2003年京都市立芸術大学大学院美術研究科博士課程彫刻専攻修了。2009年「Sandwich」を創設。

名和は、感覚に接続するインターフェイスとして、彫刻の「表皮」に着目し、セル（細胞・粒）という概念を機軸として、2002年に情報化時代を象徴する「PixCell」を発表。生命と宇宙、感性とテクノロジーの関係をテーマに、重力で描くペインティング「Direction」やシリコンオイルが空間に降り注ぐ「Force」、液面に現れる泡とグリッドの「Biomatrix」、そして泡そのものが巨大なボリュームに成長する「Foam」など、彫刻の定義を柔軟に解釈し、鑑賞者に素材の物性がひらかれてくるような知覚体験を生み出してきた。

近年では、アートパビリオン「洗庭」など、建築のプロジェクトも手がける。2015年以降、ベルギーの振付家/ダンサーのダミアン・ジャレとの協働によるパフォーマンス作品「VESSEL」を国内外で公演中。2018年にフランス・ルーヴル美術館ピラミッド内にて彫刻作品《Throne》を特別展示。



RICOH ART GALLERY



Facebook



Instagram

RICOH ART GALLERY

リコーアートギャラリー

場所：〒104-0061 東京都中央区銀座 5-7-2
三愛ドリームセンター 8F・9F

TEL：03-3289-1521

お問い合わせ：zjc_ricoh-art-gallery@jp.ricoh.com